

経営比較分析表（令和5年度決算）

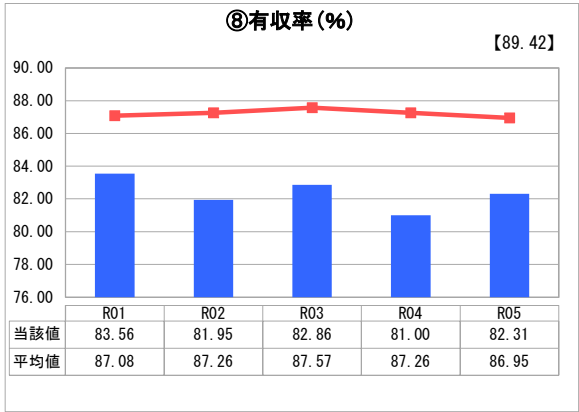
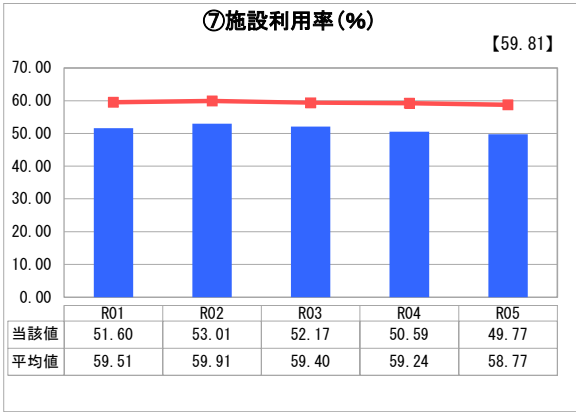
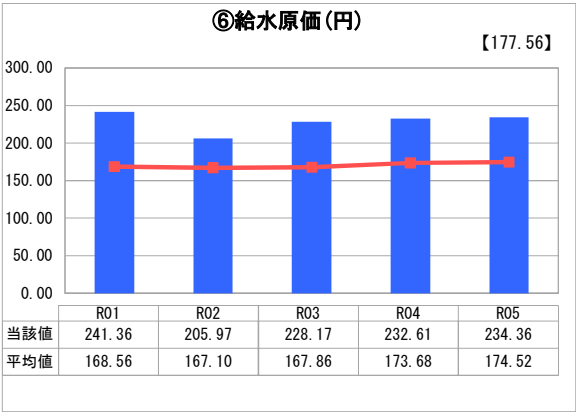
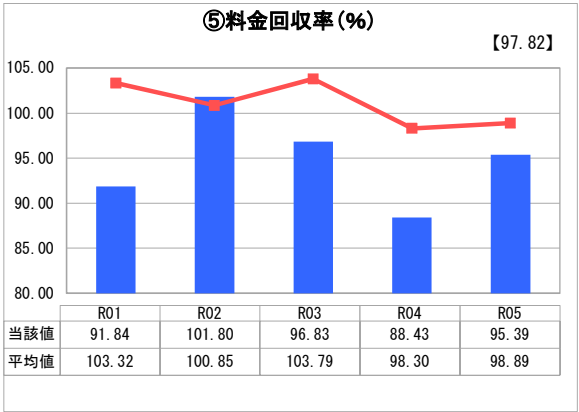
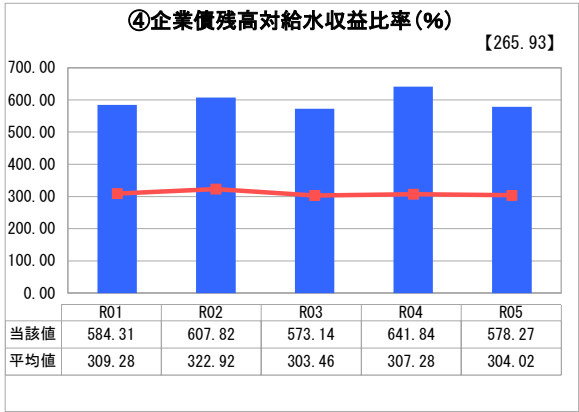
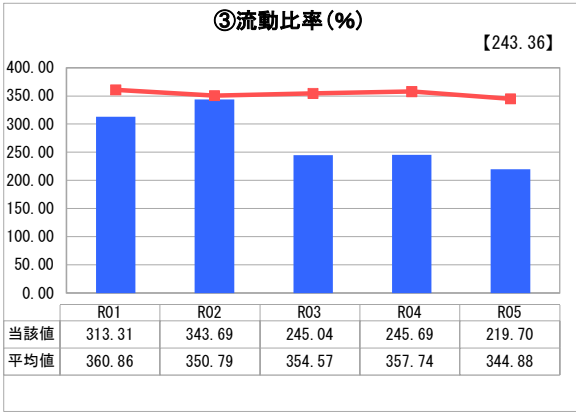
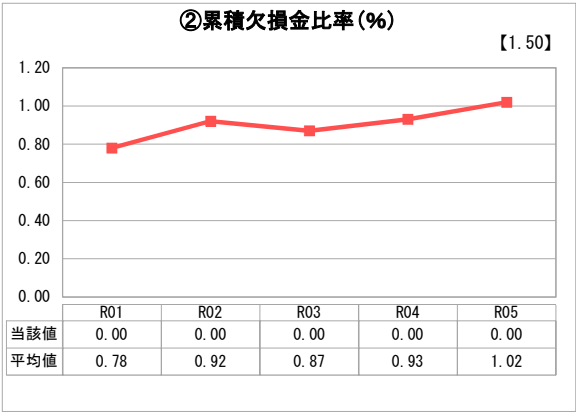
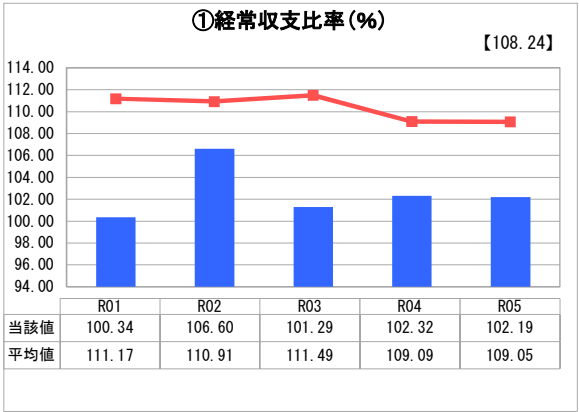
福岡県 直方市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	46.18	99.20	4,081	

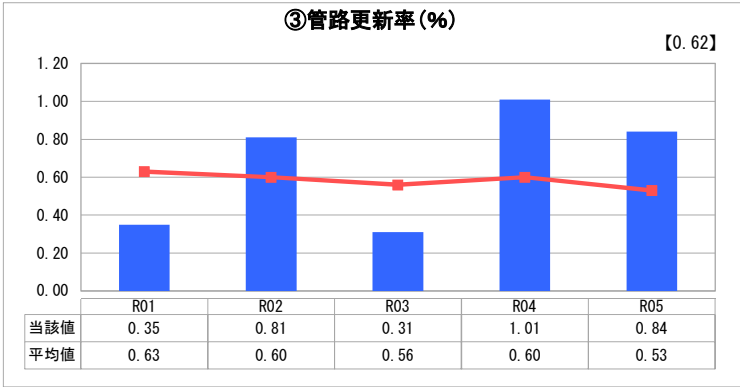
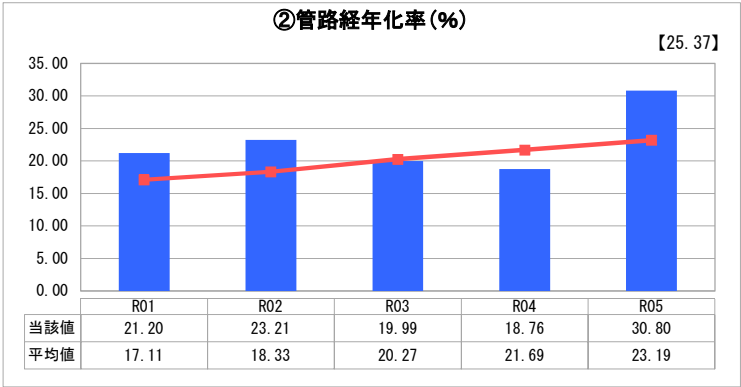
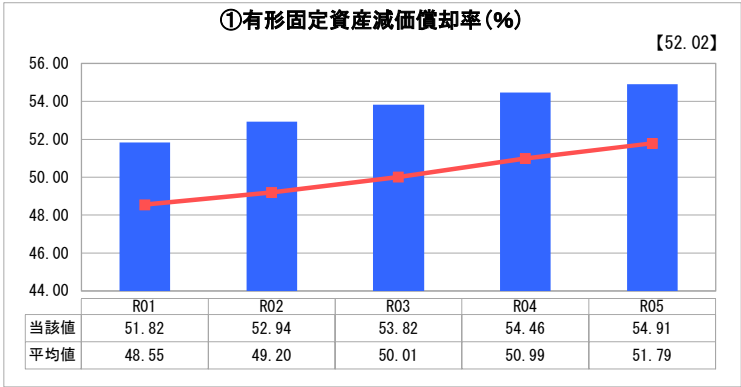
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,164	61.76	893.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
54,580	44.96	1,213.97

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
2年度の経常収支比率の上昇の要因は、人員の見直し、退職引当金の削減、及びコロナ対策の補助金（他会計負担金）の増によるもの。2年度を除けば、右肩上がりですべて100%を超えていることから、経営改善に向けた取組が成果を上げていると考えられ、今後も改善傾向を維持する必要がある。

②累積欠損金比率
累積欠損金は発生していない。

③流動比率
今後も人口減少による、収入減少が見込まれるため費用の削減を続ける必要がある。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較すると高い水準となっている。交付金による償還原資は確保されており、返済計画に沿った償還は進んで企業債残高は減少傾向にある。

⑤料金回収率
令和4年度に水道料金減免を行い、給水収益が減少し料金回収率が減少したが、令和5年度は以前の水準に戻った。料金回収率が100%には届いてなく経費削減、料金収入の確保に取組む必要がある。

⑥給水原価⑦施設利用率⑧有収率
主たる原因は市内4箇所にある浄水場の維持管理費と老朽化した施設の維持管理費が原価を上昇させていると考えられる。経常費用の削減と併せ、今後の人口減少を鑑み、施設の統廃合等も検討する必要があるため、近隣事業者との広域連携協議を行っている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
近年、上昇率が高いため早急な施設等の更新が必要となっている。原材料費の高騰やコロナ禍に加え世界情勢の影響が重なり一部製品の納期遅延など不安定な状況が続いている。現状の対策としては、補助金等を最大限に活用した施設更新を継続している。

②管路経年化率
5年度に管路更新率は上昇しているが、管路経年化率を下げるまでには至っていない。今後も老朽管更新の早期着手に向けた計画を進めていく必要がある。

全体総括

直方市水道事業は、単年度黒字が続いている状況であるが、管路の経年劣化率の高さ、及び浄水施設の老朽化等の状況から、今後は整備費用がさらに増大することと予想される。当年度においても原材料費の高騰が顕著であり、加えて世界情勢の影響が重なり一部製品の納期遅延など施設の老朽化に更新が追い付いていない状況が続いている。

給水収益は、人口減少に伴い今後も減少する見込であるため、経営改善に向けた取り組みとして、新たな需要の確保や施設の統廃合や近隣事業者との広域連携も促進させていかなければならない。

経営の効率的な運営を図ると共に、安全な水道水を安定的に供給するため、経常的な費用を見直すことにより、健全な企業経営及び財政の確立を進めていく必要がある。